

リーマン・ショックとコロナ・ショック下の株価の反応

関西大学 英 邦広

本稿の目的は、リーマン・ショック後とコロナ・ショック後の株価の変化に対して、国内と海外の金融市場の動向や日本銀行の金融政策がどのような影響を与えたかを、AR(1)-GARCH(1, 1) モデルとAR(1)-EGARCH(1, 1) モデルを用いて分析することである。分析の対象期間として、リーマン・ショック後は2008年9月17日から2011年12月30日までで、コロナ・ショック後は2020年1月17日から2023年5月2日までである。得られた主な結果を以下にまとめる。

1番目に、リーマン・ショック後とコロナ・ショック後の両方において、日米の政策金利差の上昇は国内の株価を押し下げていることが確認された。ただし、コロナ・ショック後の方が、株価を押し下げる効果は小さい。また、リーマン・ショック後において、日米の10年物の国債金利差の下落は株価を押し下げていることも確認された。2番目に、リーマン・ショック後において、円安・ドル高が起こると国内の株価が上昇することが確認されたが、コロナ・ショック後にはそうした効果が確認されなかった。3番目に、リーマン・ショック後とコロナ・ショック後の両方において、vix指数が上昇することで国内の株価が下落する効果があることが確認された。4番目に、金融政策決定会合の翌日の国内の株価に対する効果は確認されなかった。5番目に、新型コロナウイルス感染症の新規陽性者の人数が減少すると構内の株価は上昇し、新規陽性者の人数が増加すると株価は下落することが確認された。